

図 7: エディプス・コンプレックスの諸段階 (3)

from エディプス第二の時

エディプス第三の時

#7.13

しかし、このとき父は「ファルスを持つ者」としても現れている。
その側面を受容するとき、幼児はファルスの存在を
ファルスが現前しない状況のまま信じられるようになるので、
幼児は**大他者の非一貫性を大他者の本質として**
認められるようになる (= 大他者の「去勢」を受け入れる)
(= S(A))。

#7.15

父がファルスを持つと解釈されるとき、
→ 父は**超越的な「法」**によって
大他者を統御する者と解釈されるようになる。

#7.14

幼児に大他者の去勢を
認めさせる者としての父を
「**現実的父**」と呼ぶ。

#7.16

このような父を
「**象徴的父 (= 『父の名』)**」と呼ぶ。

#7.17

父が持つ法の根拠としてのファルスは
「**象徴的ファルス**」と呼ばれる。

#7.18

これは、幼児が**自身の対象a**について
「父および父の持つファルスを用いることで
究極的には解決可能なものである」と
解釈できるようになることと等価である。

#7.20

現実的父に同一化し、
自身も象徴的ファルスを父のように
持とうとする主体を
「**(精神分析的) 男**」という。

#7.21

象徴的ファルスに同一化し、
ファルスを持つ現実的父に欲望されることで
ファルスを間接的に持とうとする主体を
「**(精神分析的) 女**」という。

#7.19

そこから、主体は**対象a**を解消するために
自身もファルスを持つことを「**欲望**」するようになる
(= 「**欲望の主体**」の誕生)。

to #8.1